

# つながり



つながり深まる学園祭実行委員(撮影:河邊 聡子)

## 特集 「つながり」川崎学園祭

■ 介護福祉科名称変更／介護の日

■ 表彰／第3回公開講座

■ 実習開始式 他

■ 教員の自己紹介<sup>24</sup>／先輩から後輩へ<sup>24</sup>

■ 上海師生訪問団／ハラスメント防止講演会

■ 新任教職員紹介／上海からニーハオ！！／補助金・助成金／川崎エコプロジェクト

■ インフォメーション



# 特集

# つながり

第37回川崎学園祭

2011年10月8日(土)・9日(日)

今回の特集では、学園祭のテーマである「つながり」に着目しました。  
このテーマには、東日本大震災という未曾有の災害を乗り越えていけるよう、  
遠く離れている岡山の地からも被害者の方との「つながり」を意識し、被災地支援にあたること、  
そしてそれが被災者の希望につながればという願いが込められています。  
学園祭やオープンキャンパスに参加した人からの東日本大震災を決して忘れてはいないという  
メッセージを笑顔とともに紹介します。まず、オープンキャンパス・学科紹介に来た高校生、  
次にイベントに参加した学生、さらに地域とのつながりを紹介しました。  
加えて、学園祭の裏方として大活躍の学友会役員の学園祭当日までの奮闘をお伝えます。



# 東北に届け！ ～東日本大震災を忘れない！～

..... 学園祭やオープンキャンパスに参加した人からのメッセージ .....



被災地のためにできること。  
岡山からでも、ひとりでも、できること。  
**大震災を、そして人と人との「つながり」を忘れないこと。**

# 来場者と「つながり」ました！



## 高校生と —オープンキャンパス—

学園祭開催に合わせて、オープンキャンパスが開催されました。学内見学・病院見学や入試対策講座、進学相談、学科別相談コーナーなどに多くの高校生が来場しました。また、会場では、看護科、臨床検査科、放射線技術科、介護福祉科、医療保育科の5学科が各ブースに分かれ、学科紹介を行いました。各ブースでは、教員の協力のもと、学生が今まで学んだことを生かし、高校生に学科の特色を説明し、医療・福祉・教育分野への進学の夢をもつ高校生と、専門職を目指す在学生との夢がつながりました。



▲進学相談



▲学科紹介



▲病院見学



▲臨床検査科のブース

## イベントで —野外特設ステージ—



▲ライブではステージと観客が一体に



▲イントロクイズで白熱



▲ステージ前の観客



▲早飲み競争

野外特設ステージでは、ステージイベントが開催されました。天候にも恵まれ、多くの来場者が足を運びました。軽音楽部や手話部、アカペラ部のライブでは、出演者と観客が一体になって盛り上がりました。イントロクイズや早飲み競争、アムレスリング対決では、学生同士の熱い競い合いや、学生と職員が火花を散らす展開もあり、歓声があがりました。ピンゴ大会では、景品が当たって喜ぶ人も、ピンゴカードの数字がなかなか揃わないまま終わる人も、終始楽しそうな笑顔でつながりました。

## 仲間・来場者と —手話部の模擬店を通して感じたつながり—

今回の学園祭で、手話部は模擬店でフロートジュースを販売しました。部員で話し合い、準備は全員で分担し、各自の担当する物品を手配し、持ち寄りました。当日は多くの来場者にお越しいただきました。途中、部員は別会場やステージで手話コンサートを行いました。その時には3年次生の先輩が模擬店のお手伝いをしてくださいました。

手話部の仲間や先輩たちと協力したことによって、模擬店も手話コンサートも、無事に成功しました。学園祭を通して部の仲間とのつながり、来場者とのつながりを深く感じました。  
(手話部部长 看護科2年 広末 佳奈)



▲仲間とのつながり



▲小さなお客様



▲友達も今日はお客様！



学園祭の裏方

# 学友会も「つながり」ました!

学園祭実行委員長：医療保育科2年 塩出 晴果

## 震災で感じた「つながり」の大切さ



▲JR中庄駅前での募金活動…まだまだ寒い頃でした



▲義援金を山陽新聞社へ届けました

3月11日に起こった東日本大震災を受け、私たち学友会も「何かしたい」と思い、3月15日から募金活動を始めました。皆様のご協力のおかげで、7月15日の時点で、434,676円の義援金が集まりました。

大震災から半年以上が経ちましたが、警察庁の発表によると、いまだに行方不明者数は3,847人（10月14日現在）です。また、仮設住宅で生活している方も多くいらっしゃいます。ニュース番組で大震災のことを見る度に、なかなか復興が進まないことから長期の支援が必要だということを切実に感じます。

学友会では、学園祭でも募金活動を行い、現在も校内にあるタカシマヤに募金箱を設置しています。大震災後で一番防ぎたいことは、記憶が風化していくことです。今後も募金活動を行っていきますので、ご協力よろしくお願ひします。

## 学園祭に向けて

学園祭前に、学年・学科の枠を超えて交流し、一致団結しようと広島県福山市鞆の浦にある仙酔島に1泊2日で研修旅行に行きました。仙酔島は、瀬戸内海を中心にあり、取り囲む海は満干差が最大4メートルにもなるエネルギーに満ちた場所です。1日目は、みんなで江戸風呂に入りました。江戸風呂とは、服を着たまま蒸し風呂に入り、その後、高濃塩度の温泉に入って母親の胎内にいるかのような体験をし、最後に温泉のすぐ近くにある海に入って泳ぐという変わった入浴法で、体の疲れを取ることができました。夜は、みんなで瀬戸内の幸を食べ、海ホタルの観賞をして交流を深めました。2日目は、遊覧船に乗って仙酔島や映画「崖の上のポニョ」の舞台となった鞆の浦の街並みを海の上から見たり、島の中を散策したりし、自然に触れて心を癒しました。普段あまり話さなかった人とも交流することができ、学園祭に向けて親睦を深めることができました。



▲仙酔島へ船で行きました



▲「つながり」の大切さを実感しました

## 地域と



▲学友会の清掃メンバー



▲皆さん熱心に清掃してくださいました

日ごろお世話になっている近隣の方に感謝の気持ちを表し、地域とのつながりを深めることを目的に、学園祭前の10月1日に本学周辺の清掃活動を行いました。朝8時30分には、学友会役員をはじめ、学生、教職員が91人も集まり、落ち葉やごみを集めました。おかげさまで、綺麗になった会場で学園祭当日を迎えることができました。

「介護福祉科」から「医療介護福祉科」へ名称変更

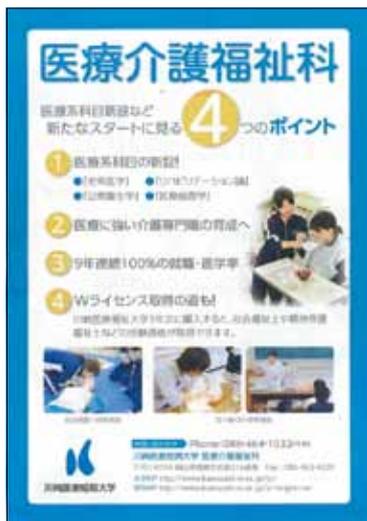
平成十三年四月、高度な専門知識と優れた技術を併せ持つ介護専門職の育成を目標として産声を上げた介護福祉科は、多くの方のご支援により今年十周年を迎えました。この区切りの年に、「社会福祉士及び介護福祉士法」等の一部改正がなされ、次年度以降、介護福祉士の業務に療の吸引等、一部の医療ケアが追加されることになりました。この法改正をうけて、今後は医療と介護の連携や分担が求められることが予想されます。そこで、介護福祉科は新たに「医療介護福祉科」へと名称を変更し、教育カリキュラムを一部改正し、要介護者の多様なニーズに対応できる人材育成へと歩みを進めてまいります。

ALS（筋萎縮側索硬化症）のように現代の最先端の医療技術をもってしても、原因や治療方法が確立できない難病の方等も、二十四時間の家族の介護努力は想像に難くない状態といえます。介護が必要な方やその家族への生活支援の担い手を養成しつつ、日常生活の健康維持に必要な援助ができる医療の知識をもつ介護福祉士養成に努めていく所存です。

要介護高齢者の増加は歯止めをかけることはできません。現在約四百万人といわれている介護が必要となる人々は、今後、団塊の世代の人々が後期高齢者の仲間入りをされる十年後には想像以上の数となるに違いありません。また、それらの方々をケアするスタッフは現在の倍の人的資源が必要と推計されています。介護は人間でしかできないからです。また、在宅での寝たきり状態の方、



▲名称変更の案内チラシ



「十一月十一日は介護の日」『介護フェア』に参加

介護の日を記念する『介護フェア』が、十一月五日(土)に(社)岡山県介護福祉士会と日本介護福祉士養成施設協会岡山支部の協賛のもと岡山衛生会館三本記念ホールにおいて執り行われました。今年度も本学は参加し、学生と卒業生、教員、総勢四十五名で会を盛り上げました。

イベントの前半は、介護福祉士を養成する専門学校や短大、大学など県下八校の学生によるアトラクションです。各校で、この日のために練習を重ねてきた創作劇やオペレッタ、お囃子演奏などを披露しました。本学は、手話歌で「トイレの神様」と「ハナミズキ」を行いました。

また、東日本大震災において被災された方々に対し、少しでも笑顔を取り戻す力を届けたいという願いを込めて、坂本九さんの名曲「上を向いて歩こう」を、参加した養成校合同で合唱しながら手話表

現をしました。

後半では、鎌田實氏による記念講演が行われました。鎌田氏は、被災地で見聞したことを克明に伝えてくださるとともに、「人間には味方となる人が一人でもいれば必ず行動変容を起こすことができます」と優しく語りかけてくださいました。また、「養成校の学生は国の宝、岡山県の方々が出逢い、ふれ合うことが非常に重要な意味をなす」と話されました。

他にも、ハンドマッサージや介護相談、学校紹介、介護関連企業などの展示ブースもあり、興味を示しながら見入っているシーンが各所で見られました。

今年も、多くの来場者でにぎわいを見せるとともに、各関係者の介護への想いが集大成した実りある記念イベントになりました。



▲参加者全員で手にCW (Care Worker)



▲表情よく手話歌を披露

## 第八回 編集手帳見出しコンテスト

### 佳作（五名）ならびに学校賞受賞

読売新聞大阪本社主催の「第八回編集手帳見出しコンテスト」において、佳作を五名が受賞、学校賞も受賞しました。

このコンテストは、読売新聞の朝刊一面のコラムである「編集手帳」に見出しを付けるものです。五万一千四百七十一人（の応募の中から優秀賞五名と佳作七十七点が選ばれたものです。学校賞については、大学、短大、高校、中学、専門学校の八三校から一〇校が選ばれました。本学は、第六位のポイントで学校賞に選ばれました。この取り組みは、平成二十三年度前期「日本語」の講義で実施したものです。

佳作受賞者は、看護科一年江原あゆ美さん、木場美里さん、矢内琴海さん、放射線技術科一年竹内圭純さん、介護福祉科一年大崎莉穂さんの五名です。おめでとうございます。ありがとうございます。



▲上段 左から矢内さん、竹内さん  
下段 左から木場さん、大崎さん、江原さん

## 第八回 海外日系文芸祭 (みなとみらい文芸祭)

### 短歌の部に三名が入選

海外日系新聞放送協会他主催、JACA横浜国際センター他後援の「第八回海外日系文芸祭（みなとみらい文芸祭）」において、三名が入選しました。

この文芸祭には、短歌の部と俳句の部があり、ブラジル、アメリカ、イギリスなどの十四カ国（応募総数一八五五作品）の中から選ばれていきます。受賞者と受賞作品は以下の通りです。



▲左から中村さん、滝澤さん、濱田さん

❖ 君がいない こんな春は寂しくて

舞い散る桜が 涙のようで

(看護科二年 中村英珠)

❖ 最初はね 行きたくなかったあの場所も

みんなと出会えた 大切な場所

(医療保育科二年 滝澤恵)

❖ 春にはね 出会いと別れがあるんだよ

春が来るって 幸せなこと

(医療保育科二年 濱田夏実)

平成二十三年度 第三回公開講座

## テーマ ダイエットと心の健康

看護科 准教授 曾谷貴子  
看護科 講師 日下知子

十月八日(土)、第三回公開講座を「ダイエットと心の健康」というテーマで開催しました。「安易なダイエットは危険であること、心の病気になるかもしれない上にダイエットしましょう」をねらいとして行いました。

前半の講座では、食行動の意味・しくみ、ダイエットにより脳に必要な栄養が不足し、その結果、心の病気になる危険性があること、ストレス太りに陥りやすいのはなぜかなどのお話をしました。後半の講座では、ダイエットの流行する背景や実態、摂食障害の中心に話をしました。そして、行き過ぎたダイエットにならないために、ダイエットする時の身体や心の変化を知ること、ストレス解消を食行動に置き換えなため健康的な生活のあり方について話をしました。

心の健康については、「こころの健康 SOS どうすればいいの？」や「こころのお手入れはじめてBOOK」を紹介しました。これらのパンフレットを活用して、心の健康状態をチェックすることも大切ではないでしょうか。この講座を機会に、今までの自分自身の食行動を見直し、心の健康に目を向けることになればと思います。講演後には、ワンポイントストレッチを参加者全員で行い終了しました。



▲ダイエットをするときに



▲ダイエットと心の健康

医療保育科 実習開始式

六月十四日(火)に挙行された実習開始式は、医療保育科二年次生が学外での実習を開始するにあたり、毎年実施しています。本学の学生としての誇りを持って実習に臨むことを、参列した教職員や後輩に対して宣誓します。今回の式では、今城吉成学長、寺田喜平医療保育科主任から激励の言葉が贈られました。また、医療保育科二年次生の笹岡愛さん、瀧口真由さんが学生代表として、翌日から始まる保育所での実習への意気込みを宣誓し、最後に全員で学歌を力強く歌いました。緊張した面持ちで式に臨む学生の表情からは、実習への意欲の高まりが感じられました。



▲学歌斉唱

(笹岡さんの感想)

実習開始式では、大学の名前を背負っていることや自分たちが実習をさせてもらう立場であることを再認識し、「よしやるぞー」と前向きな気持ちになることができました。宣誓はともプレッシャーを感じましたが、先生方やクラスメイト、後輩の皆さんが見守ってくださったおかげで力いっぱいできました。初めての实習を前に不安でしたが、実習開始式で実習への意欲を高めることができました。

実習、頑張ります! /



▲学生代表による宣誓 (左:瀧口さん、右:笹岡さん)

(瀧口さんの感想)

宣誓の練習をしているときは、とても緊張し声も出ていなかったと思います。実習開始式本番が始まると、宣誓の場面では緊張がなくなり、笹岡さんと一緒に思いを込めることができました。皆さんの前に立つて宣誓をしたことで、二年次生全体の意気込みの強さを感じることができました。学歌も全員でしっかりと歌え、実習を始める上で良いスタートをくれた実習開始式だったと思います。

看護科 戴帽・授章式

本学の坂から見上げる木の葉も鮮やかに色づきはじめ、さわやかな秋晴れとなった十月二十九日(土)、看護科百十八名の戴帽・授章式がとり行われました。今城吉成学長からは、実習要項を十分に読み、自分の計画をしっかり立てて実習に臨むように、山谷富美枝看護協会長からは、看護に必要な知識・技術・心を身につけ、気づく心が人間性を養うという話をされました。そして、卒業生の石原香里さん(第三十期生)から、臨地実習体験によって、自分自身が目標を持って「わかる」という小さな喜びを積み重ねながら自信をつけてきたこと、友達との繋がりを大切にしながら乗り越えて欲しいというメッセージにより、臨地実習への決意を新たにしました。



▲神聖な灯を胸に

臨床検査科 ワッペン授与式

臨床検査科二年次生(第三十八期生)六十名を対象としたワッペン授与式が、九月二十六日(月)、今城吉成学長、同窓会臨床検査科支部長の舟田和幸氏にご隣席いただき、厳かに挙行されました。式典では、通山薫学科主任によって、学生一人ひとりの左肩にワッペンが授与され、代表学生の堤克英さんによって授与式誓詞が力強く読み上げられました。激励の言葉として、通山学科主任よりワッペンの意味や、臨床実習現場での取り組み方について、今城学長より検査技師の役割と責任の重さや医療陣としての心構えの大切さについて、舟田氏より臨床検査科の今昔とこれから必要となるビジョンの話をいただきました。



▲左肩にワッペンを授与され、決意新たに胸をはる学生たち

放射線技術科 授章式

九月二十四日(土)に、第三十四回授章式が挙行されました。村中明学科主任が、「ワッペンは、一年半にわたる基礎学習を終了し、臨床実習の許可として贈られます。また、これまでの伝統に恥じないよう強い決意で臨み、励んでほしい」と述べられ、二年次生六十二名一人ひとりに期待と応援の思いを込めワッペンが授与されました。

続いて、「激励の言葉」として、第二十八期(平成十九年)卒業生で国立病院機構米子医療センター勤務の本山英介さんから、自分の体験をもとに実習でのアドバイスをいただきました。最後に、授章生を代表して土居貴一さんが「決意表明」を行い、式が終了しました。



▲真剣な眼差しの授章生たち

教員の自己紹介②

「食欲が進む、簡単で美味しい介護食を」



介護福祉科 講師 河邊 聡子

私は、介護福祉科に所属していますが、実は管理栄養士です。学内では、複数の学科で「臨床栄養学」「小児栄養」「生活支援」などの講義や実習を担当し、栄養の基礎知識はもちろんのこと、食生活に役立つ身近な話題なども講義で紹介しています。

皆さんは、食べることに興味がありますか、何でも食べてみようと思いませんか。でも、この楽しみが続けられなくなった時のことを考えたことがあるでしょうか。皆さんの身近なおじいさんやおばあさんは、毎日の食事、何でも美味しく食べられているのでしょうか？高齢に伴う機能低下や病気による機能障害により、噛むことや飲み込むことが上手くできなくなったら、どうでしょう。この場合、歯茎や舌でつぶせるかたさの食事、そして飲み込みやすさを考えた食事、さらに、美味しく見せる料理が必要になります。これらを考慮した料理が、「介護食」

と呼ばれるものです。私は、学外で岡山県栄養士会に所属し、介護食研究会の一員として活動しています。

介護食研究会では、高齢者施設に勤務する管理栄養士の方々と共に、食欲が進む介護食、簡単で美味しい介護食を合言葉に、ここ川崎医療短期大学を会場に研修会を開催しています。ここでは、介護食を作る際のポイントを多くの方に習得していただくために、調理実習もしています。どんな時でも食事はおいしく、楽しみであって欲しいと願いながら、開催準備では、介護食の研究、参加者が簡単に介護食を調理できるための調理技術の伝達方法などを毎月一回、研究会スタッフの勉強会で行っています。

写真は前回の研修会の様子です。参加者は、施設に勤務する管理栄養士や調理師・調理員、さらに在宅介護をされている方です。皆さん、熱心に取り組みられています。興味のある方はぜひ参加してみてください。



▲熱心に取り組む参加者



▲研修会で調理した介護食と普通食

先輩から後輩へ②

「学生時代に実践して欲しいこと」



福山市民病院 放射線科 診療放射線技師 門田 侑子(放射線技術科第32期生)

「勉強をすること」です。私は今CTの研修を行っています。その中で特に大切だと思ふことは、学生時代に学んだ解剖学です。基本的な解剖がわかっていると病気があつても分かりません。またその病気が何かによつて検査方法が変わってきます。病院実習では患者さんの入退室の介助だけでなく、実習を上手く利用して読影力をつけてください。

今年の三月に川崎医療短期大学放射線技術科を卒業し、四月から福山市民病院に勤務しています。福山市民病院は現在病床数四〇〇床の総合病院であり、二年後には五〇〇床になります。また、放射線科の特徴としては三二〇列のCTがあり、毎日たくさん冠動脈検査が行われています。そして、数ヶ月後には3T(テスラ)のMRIが動き始めます。

私はまだ働き始めて七ヶ月ですが、働いていて大切だと思ったことを話したいと思っています。まず、「メモをとること」です。先輩に教えてもらったことはしっかりメモとして残してください。次に、「分からないことは素直に先輩に聞くこと」です。聞くことが恥ずかしいというようなことでも質問をして行動に移した方が良いと思います。よく分からないまま、検査を行うとインシデントを起こす可能性があるからです。そし

これら三つのが特に大切だと思ひました。川崎医療短期大学は恵まれたことに約十カ月の実習期間があります。ぜひ実習中に実践してみてください。そして、患者さんに「ありがとう」と言ってもらえる技師、医者が求めている情報を提供できる技師を目指してください。



▲現在設置中の3T(テスラ)のMRI装置

# 上海師生訪問団

看護科二年 高木 あゆみ

八月二十二日から二十六日まで第十二期上海訪問団として、看護科二年八名及び教員二名の計十名が参加しました。上海に到着し、人の多さ、近代的な街並みに驚き緊張していた私たちがでしたが、上海の先生方、生徒の皆さんに温かく迎えていただき、とても安心しました。

訪問中は中国の歴史や言葉を教わり、夜景の綺麗な上海テレビタワーや庭園が美しい豫園など観光地にも連れて行ってもらい、楽しく中国の文化を学ぶことができました。

上海健康職業技術学院では学校内を見学しました。各看護領域の実習室にはナースステーションや病室、手術室などたくさん設備があったことに驚きました。知識と技術が身に付き、すぐに病院実習に活かせると思えました。上海第一病院では、病院の大きさ、外国人専用の



▲上海健康職業技術学院内の「手術室」



▲ネオンが綺麗な上海の町「南京路」



▲第一人民病院という大病院にて

病棟があること、外国語の出来る看護師が居ることに驚きました。言葉が通じない緊張する外国で病気になった場合、とても不安になると思いますが、母国の言葉が分かる看護師さんが見てくれるとなると、心強いと思えました。病棟には手厚い看護と確かな技術を提供するという意味の言葉が大きく掲げられていることにも感心しました。

今後看護を勉強していく上で、実践力のあるナースになれるように頑張っていきたいと思えます。今回の研修では大変貴重な体験をさせていただき、お世話になった皆様に深く感謝いたします。

## 平成二十三年度 ハラスメント防止講演会

### テーマ キャンパスライフとメンタルヘルス ―ハラスメントとその周辺の話題―

岡山大学保健管理センター 清水幸登 氏

十月一日(土)、本学にて、全学科の一年生を対象とした、ハラスメント防止講演会を開催しました。本学では、平成二十年にセクシユアルハラスメント防止委員会がハラスメント防止委員会に名称を変更しました。さらに、今年度からハラスメント防止委員会と人権教育委員会が合併し、新たにハラスメント防止委員会となりました。今回のような講演会は、ハラスメント防止委員会と学生相談室との共催で、平成二十一年度から開催されています。

り、具体的なハラスメントの例から、賠償問題、刑法の話と幅広い内容でした。特に、多くの学生は自分が被害者になるだけではなく、知らないうちに加害者にもなりうることに驚いていたようでした。このような講演を聞くことによって、学生の皆さんがハラスメントのない環境について、少しでも考えることができると思います。(ハラスメント防止委員会委員長 山根正信)

講師は昨年と同様、岡山大学保健管理センターで主にメンタルヘルス外来を担当されている清水幸登氏にお願ひしました。演題は「キャンパスライフとメンタルヘルス―ハラスメントとその周辺の話題―」でした。清水氏は、精神科医、臨床心理士、精神保健指定医でもあり、多くの学生からのメンタルに関する相談を受けています。熱の入った講演に学生たちは非常に熱心に聞き入っていました。講演は硬軟織り込まれてお



▲わかりやすい講演で学生も納得！



▲熱心に聞いている学生たち

| 平成23年度 補助金・助成金一覧 |   |          |       |
|------------------|---|----------|-------|
| 研究代表者            | 一般教養教授 名木田 恵理子  | 配分額 (千円) | 650   |
| 名 称              | 科学研究費補助金 基盤研究 (C)<br>『医療系英語授業へのeラーニングと協調学習の効果的導入：デザインから実践・評価まで』 |          |       |
| 研究代表者            | 放射線技術科准教授 原内 一  | 配分額 (千円) | 1,560 |
| 名 称              | 科学研究費補助金 基盤研究 (C)<br>『側方散乱を用い被写体体型に依存せずに高診断能の低価格乳房正面撮影装置開発』     |          |       |
| 研究代表者            | 一般教養講師 森本 寛訓  | 配分額 (千円) | 1,040 |
| 名 称              | 科学研究費補助金 基盤研究 (C)<br>『介護福祉士の職場定着を促進する要因に関する研究—ライフコースの観点から—』     |          |       |
| 研究代表者            | 医療保育科准教授 中原 朋生  | 配分額 (千円) | 780   |
| 名 称              | 科学研究費補助金 若手研究 (B)<br>『米国キャラクターエデュケーションにおける公民と道徳の統合論による社会科授業開発』  |          |       |
| 研究代表者            | 医療保育科助教 中井 靖  | 配分額 (千円) | 650   |
| 名 称              | 科学研究費補助金 若手研究 (B)<br>『ブロンディの音声解析を活用した基本的言語形成期における自閉症超早期診断ツール開発』 |          |       |

## 新任教職員紹介

本学の仲間になった教職員の方を紹介します。



◆ 藤原 由泰 看護科 助教

学生生活が有意義なものになるようにサポートしていきたいと思っています。一緒に頑張っていきましょう。

## 上海からニーハオ!!



◆ 陸 龍君 (LU LONGJUN)

【出身】 中華人民共和国 上海市  
【経歴】 上海市衛生学校 卒業  
【趣味・特技など】 朗読、ドラマ鑑賞、旅行

### 【川崎医療短期大学の第一印象】

川崎医療短期大学は、広くて立派な学校と感じました。緑に囲まれたキャンパスはとても静かで落ち着きます。先生方や寮の皆さんも親切で優しくしてくださり、とても心強いです。生活面の整備は万全で、学習面もたくさん本がある図書館があってとても便利と思っています。こんな素敵な環境で勉強し生活することは非常に楽しいことだと思っています。これから一生懸命頑張りたいと思っています。

### 【メッセージ】

日本に来てもう1か月になりました。先生方、舎監さん、寮母さん、そして寮の皆さんに温かく迎えていただきとても嬉しく思い、安心しました。皆さんのおかげで日本の生活にだんだん慣れてきました。在日中、色々新たなことを体験し、色々異なる文化を勉強し、滞在期間を利用して有意義に過ごしたいです。



◆ 朱 慧 (ZHU HUI)

【出身】 中華人民共和国 上海市  
【経歴】 上海市衛生学校 卒業  
【趣味・特技など】 旅行、朗読、漫画、アニメ

### 【川崎医療短期大学の第一印象】

川崎医療短期大学の環境は、自然が多く爽やかな感じですが、先生方も寮生達も本当に優しく、色々なことを教えてくれて、本当に感謝しています。こんな先進的な医療設備と技術がある学校で勉強できて、とても光栄で嬉しいことと思っています。

### 【メッセージ】

初めて生まれ故郷を離れました。最初は不安でしたが、今はそんな気持ちはもうすっかり無くなってしまいました。皆さんのおかげで日本の生活は本当に楽しいです。食堂のご飯もおいしいです。これから一生懸命頑張ります。

地球温暖化対策  
ワーキング  
グループだより



川崎エコ  
プロジェクト

Think  
globally,  
Act locally

大分以前から地球環境を保全し、省エネを促進する行動の標語として、上記の英文標語が口にされるようになりました。訳すと“地球規模で考え、足元から行動せよ”という意味になります。

それでは、「足元からの行動」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。例を挙げてみましょう。

「節電・省エネ・節水を心がける」

「食べ物を大切に」

「公共の場所を汚さない」

「ポイ捨てをしない」

「リサイクルを心がける」

誰でもできる簡単なことですね。もちろん、私どもの身近な場所（地域、大学、家庭、寮など）でできることです。このようなささやかな行動が、世界や社会をよりよい方向に変えるということになりますね。

## 主要行事 (1月~3月)

**1月**  
4日 仕事始め  
10日 放射線技術科2年 臨床実習開始 (~2月16日)  
21日 医療保育科 保育実習成果発表会

**2月**  
5日 一般入試前期  
10日 一般入試前期合格発表  
15日 介護福祉科2年 卒業時共通試験  
22日 介護福祉科2年 卒業研究発表会  
28日 在学生健康診断 (~29日)

**3月**  
15日 卒業証書・学位授与式  
17日 一般入試後期  
21日 一般入試後期合格発表

## 放射線取扱主任者試験 合格者

### 【第1種】(放射線技術科3年1名)

中谷 拓矢さん

### 【第2種】(放射線技術科3年3名、2年17名、1年1名)

江藤 純一郎さん 桐島 宏美さん 轟 あかねさん  
木嶋 真史さん 坂口 瑞生さん 里 志織さん  
白井 伶奈さん 神宮 悠平さん 高橋 周さん  
武 かおりさん 武田 千春さん 田邊 彰子さん  
霍田 ゆにさん 永留 悠暉さん 濱本 友里江さん  
原 真里香さん 藤野 匡司さん 前田 和香菜さん  
松田 義貴さん 峯脇 勇吉さん 森下 佳織さん  
宮川 千幹さん

### 【放射線取扱主任者とは】

放射線業務従事者や一般公衆等に対して放射線障害が起ころないように、放射性同位元素等の取り扱いについて監督を行います。一定数量以上の放射性同位元素等を使用・保管する施設では、この免状を取得した「放射線取扱主任者」を配置する必要があります。

## 平成24年度AO入試・特別入試・推薦入試結果

### AO入試

試験日：8月27日(土) 合格発表：9月2日(金)

|      | 看護科 | 介護福祉科 | 医療保育科 | 計   |
|------|-----|-------|-------|-----|
| 募集人員 | 20  | 15    | 20    | 55  |
| 出願者数 | 70  | 11    | 48    | 129 |
| 出願倍率 | 3.5 | 0.7   | 2.4   | 2.3 |
| 合格者数 | 24  | 11    | 28    | 63  |

### 特別入試

※表中のカッコは社会人枠(内数) 試験日：10月15日(土) 合格発表：10月21日(金)

|      | 看護科       | 臨床検査科     | 放射線技術科    | 介護福祉科  | 医療保育科  | 計         |
|------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|-----------|
| 募集人員 | 30 (3)    | 10 (2)    | 7 (2)     | 15 (5) | 10 (1) | 72 (13)   |
| 志願者数 | 53 (1)    | 28 (1)    | 39 (4)    | 3      | 15     | 138 (6)   |
| 志願倍率 | 1.8 (0.3) | 2.8 (0.5) | 5.6 (2.0) | 0.2    | 1.5    | 1.9 (0.5) |
| 合格者数 | 30 (1)    | 11 (1)    | 8         | 3      | 12     | 64 (2)    |

### 推薦入試

試験日：11月26日(土) 合格発表：12月2日(金)

|      | 看護科 |    | 臨床検査科 |    | 放射線技術科 |    | 介護福祉科 |    | 医療保育科 |    | 計   |     |
|------|-----|----|-------|----|--------|----|-------|----|-------|----|-----|-----|
|      | 指定校 | 公募 | 指定校   | 公募 | 指定校    | 公募 | 指定校   | 公募 | 指定校   | 公募 | 指定校 | 公募  |
| 募集人員 | 35  |    | 10    |    | 10     |    | 29    |    | 27    |    | 111 |     |
| 志願者数 | 38  | 40 | 29    |    | 45     |    | 8     | 7* | 25    | 8  | 71  | 127 |
| 志願倍率 | 2.2 |    | 2.9   |    | 4.5    |    | 0.5   |    | 1.2   |    | 1.8 |     |
| 合格者数 | 38  | 9  | 11    |    | 11     |    | 8     | 7  | 25    | 4  | 71  | 42  |

※第2希望含む

## 川崎医療短期大学同窓会から表彰

川崎医療短期大学同窓会(松丘会)が教育支援事業の一つとして行っている「社会活動等に著しく優れた者に対する表彰」で、第1種放射線取扱主任者試験に合格した中谷拓矢さん(放射線技術科3年次生)が表彰され、12月3日に同窓会役員から記念品が授与されました。心よりお祝い申し上げます。

学生時代にこの国家試験に合格するにはかなりの努力が必要で、日々の弛まぬ努力の結果と思います。今後の活躍を期待します。



## 国家試験日程

| 区分               | 試験期日          | 合格発表          |
|------------------|---------------|---------------|
| 第101回 看護師国家試験    | 平成24年2月19日(日) | 3月26日(月) 午後2時 |
| 第58回 臨床検査技師国家試験  | 平成24年2月22日(水) | 3月30日(金) 午後2時 |
| 第64回 診療放射線技師国家試験 | 平成24年2月23日(木) | 3月30日(金) 午後2時 |

## 川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(75号)

2011年12月発行

編集発行：広報誌編集委員会

天野 貴司 (放射線技術科・委員長)  
橋本 美香 (一般教養・副委員長)  
名木田 恵理子 (一般教養)  
重田 崇之 (一般教養)  
滝本 茂子 (看護科)  
永瀬 澄香 (臨床検査科)  
河邊 聡子 (介護福祉科)  
中井 靖 (医療保育科)  
山田 篤 (庶務課)  
重政 有里 (庶務課・書記)

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話：086-464-1032 (庶務課)

Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

## 編集後記

今号の特集記事で、私は「東北に届け、東日本震災を忘れない」を担当しました。取材記者のような気持ちで、学園祭で初めて出会う方々に企画の趣旨を説明し、協力をお願いしました。多くの方がメッセージを書くこと、広報誌に掲載することを快く承してくださり、改めて東北への思いの強さや人と人との「つながり」の大切さを実感しました。

私自身、高校生の頃に阪神・淡路大震災を被災地で経験したこともあり、東日本大震災の様子をテレビや新聞を通じて知る中で、「何かしたい、何かしなければならぬ」という思いに駆られました。募金や関東の知人への物資配送をしましたが、「これで終わりじゃない、忘れたらいけない」と今でも反芻しています。

岡山にいても、ひとりでも、復興のためにできること。それは「忘れないこと」です。今号を通じて、皆さんに何か伝わるものがあれば大変嬉しいです。

(医療保育科 中井靖)